

## 韓国研修 参加報告

111066 星野直恵

### 1. 日程・滞在先

H24.9.17～21

大韓民国 ソウル市

HOTEL NAVI STAR (ソウル市ヨンドゥンポ地区)

### 2. 参加スケジュール

9月17日

午前： 11：00 成田空港集合

13：00 成田空港発

午後： 15：25 仁川国際空港着

9月18日

午前： 徒歩・バスにてミソドル老人病院、ミソドルシルバーセンター訪問

午後： 梨花女子大学及び周辺散策

高麗大学学生と夕食会

9月19日

午前： 高麗大学 キャンパスツアー

(大学本部、理系、病院地区、保健学科地区)

午後： 高麗大学講義 聴講 「放射線医療計画」

高麗大学学生と東大門周辺散策

9月20日

午前： ホテル周辺施設見学 市場、金物屋街 散策

午後： 歴史的施設見学 昌徳宮訪問

高麗大学学生と明洞周辺散策

9月21日

午前： 9：10 仁川国際空港発

午後： 11：30 成田国際空港着

解散

### 3. 授業について

今回聴講した授業は放射線学部の授業で「Three Dimensional Conformal Radiology Therapy」というタイトルで行われた。内容は、放射線を用いた治療のうち、三次元に対象をとらえて照射する治療についてなどを扱っていた。特に IMRT という放射線治療の導入の必要性を強調していた。これはある方向からがんへ放射線を照射するときに、がん細胞の形に合わせて放射線量を調節して照射が出来る治療技術である。そのためがん細胞以外のところへの照射が少なくなるので副作用も少なくなるというものであっ

た。残念なことに、私の放射線学に対する知識は極めて乏しく、すべての内容を理解することはできなかったが、看護学を専攻する者としてどの放射線治療がどんな副作用をもたらすのか、その程度はどれくらいなのかを知ることは大変有意義であると感じ、放射線学に対する興味につながった。

#### 4. 英語の重要性について

今回の研修では、日本語が大変流暢な学生の方が案内役として同伴してくれた。だから、言語に困ることはなかった。でも、その方たち以外で日本語が出来る人は少なく夕食会では英語が大変役に立った。現在、英語は世界の共通語として、多くの国で母国語または第二外国語として使用されている。韓国もアメリカの影響を強く受けた国で、店の店員や一般の人でも「英語なら」という人は多かった。

私は基本的に英語が重要なものであると考えている。それは英語が非常に有効なツールとなり、今の日本人にとってはそのツールを使えることはとても必要なことだと思っているからである。現在は様々な形でネットワークが発達して、洋の東西を問わず多くのものが日本に入ってくるようになったが、そのような繋がりがなかったころの時代は長く、そしてそれは日本人の気質というものに大きく影響した。今の日本人は海外の人たちと比べると、いわゆるハングリー精神が弱く与えられたものやその中でやって行こうという考えが強い傾向にあるということが一つの例として挙げられるだろう。それは非常に残念ではないだろうか。そのような傾向は自身の成長のチャンスを自ら断っているに等しいと私は考えている。気質や基本的な思考はその国の文化が強く影響している場合が多いから、日本のように単一民族に近い環境、島国であるという環境、排他的な環境、自ら求めていかなければ得られない環境で生きる人たちは、もっと積極的に外に目を向けなければならない。それは若ければ若いほどいい。そのために、今日において「英語が使える」ということは非常に意義深い武器であり強みであると考え。

そのことは今回の研修でも明らかに感じる事ができた。母国語が異なっても英語が話せるというだけで多くのコミュニケーションがとれたし、機転の利いたアイデアをもらったし、同じ大学生としてプライベートの相談等もできた。英語が話せるということは、自身の成長や可能性を大いに伸ばすことであると改めて強く感じた。英語は言語である。コミュニケーションのツールである。コミュニケーションが会話から始まるものと考えれば、「英語で話せる」ことが思いもよらないような面白いものと出会えるチャンスを増やしてくれる。私は今回の研修で、尊敬できる友人を増やす事ができた。それも英語を話す事ができた、ただそれだけの理由である。私は、この経験からこれからも英語や異文化に対する興味を強くもち、学習をすることは、自身の成長に直結するものと考え努力をしていこうと改めて決意した。

#### 5. 所見

現在本学では、国際的な人材の育成に力を入れ、海外の学校との提携を強めようとしている。今回の研修もその一環として行われたものであり、そのおかげで私たちは大変

貴重な時間を過ごすことが出来た。現在、国際的な視野を持つ人材の育成はどの分野でも求められている。パワフルでハングリー精神を持てる学生の時に、海外に出て様々な刺激を受けることは、国際的視野を養うにはとてもいい時期であると感じている。その点で、本学で定期的に海外研修を実施しているということは私は大変有意義なことであると感じている。今回の渡航に大変なご尽力を頂いた先生方、現地で大変お世話になった高麗大学の皆様、今回の企画に際しご協力くださったすべての方のおかげでこの貴重な経験が出来たことに、心から感謝したい。今回のこの経験を無駄にすることなく本学での学習に活かしたい。ありがとうございました。

